



**池田 静男 機械部門（クレーン） 勤務先：㈲池田技術コンサルタント**

**TEL/FAX (0143)27-5211/5210 E-mail : itc@poplar.ocn.ne.jp**

【自己、事務所 PR】 1978年(昭和53年)に登録し、企業内技術士として15年、独立自営で10年になります。機会を与えていただいたので、自営コンサルの様々な形態の一つとして紹介させていただきます。私の業務は大別して三つに区分しています。①顧問業として種々の相談業務が約20%、②委託設計業務が60~80%、③顧客側の臨時社員としてマンパワーの提供が0~20%です。マンパワーの提供例を2件紹介します。一つは顧客側の代行業務として、国交省発注の機械設備の現地工事に監理技術者として、約4カ月常駐のケース。もう一つはTDL社納入アトラクションの顧客設計プロジェクトの一人として参画のケースです。このアトラクションの詳細内容は省きますが、そのコンセプトは「海中において人魚を中心に、多くの魚介類が遊泳しながら物語を展開するもので、各役割を担った宙吊りのパフォーマンス（人間）を立体的に縦横に動き廻らせる機械設備」です。米国ディズニー社の技術者と、当初から濃密な打合せと検証の繰返しの中で、徹底した安全性追求と、国民性の違う人達との共同作業で多くを学びました。

【技術士として】 顧客は、技術士がどんな分野でも広く対応できるものという誤解にもとづいて、依頼を持ち込むことがあります。このような場合私は、新しく学ぶ事でどこまでできるか見極めながら、資格を傷つける事無く、営業上の事情と調和させて対応しています。諸先輩の益々のご指導をお願い申し上げます。



次号は、岸 明仁さん（機械部門）



**上野 博司 建設部門（道路） 勤務先：平田技術コンサルタント株式会社**

**TEL (0155)24-6233 FAX (0155)22-4199 E-mail : h-ueno@htc-k.co.jp**

1961年（昭和36年）に道北の田舎まち美深町で生まれました。

子供の頃はテレビゲームなど無く、夏は川で魚釣りや山でバッタとり、冬は山でスキーと大自然の中で育ちました。

そんな私ですが、現在はほとんど無趣味で、休日には粗大ゴミと化しています。

現在の仕事は道路の計画・設計が中心ですが、上・下水道等の設計も行っています。

8月の9~10日にかけて北海道を通過した台風10号は、日高地方とともに私の住む十勝にも大きな被害をもたらしました。

私も災害復旧の業務にたずさわりましたが、改めて自然の力の偉大さと人間の微力さを痛感するとともに、毎年のように道路や河川などの施設が被災を受けるのをみるにつけ、設計屋としてはやるせない気持ちになります。

近年、動植物保護に対する関心が高く、計画段階で環境調査を行うことが多くなっています。しかし、地形・地質に対する関心は低く、地すべり地形や相当の大土工以外はあまり注目せずに標準（マニュアル）に当てはめて設計しているのが実態で、災害はそのことへの警告かもしれません。

私たちの仕事は自然を相手にしており、今後とも自然を尊重しながら仲良く付き合っていかなければならないと感じています。



次号は、梶 光貴さん（水道部門）

# エンジニアパーク

# Engineer *Ring* Park



**金子 友美 水産部門（水産水域環境）・総合技術監理部門**

**勤務先：株式会社日本海洋生物研究所 札幌支店**

**TEL (011)786-3361 FAX (011)786-3365**

4年前の89号で自己紹介をしましたが、相も変わらず海・川・湖沼の生物や環境を扱った業務を行っています。ただ、この4年間で様々な分野の技術士の方に出会い、北海道技術士センターの活動に参加してきたことで、技術士として社会に貢献しなければならないという自覚が強くなりました。技術者倫理に関わる話題も自覚を強めたきっかけですが、自分の行っている業務が社会に対して持つ意味や影響を改めて考えさせられました。生物学は生命や進化を扱うことで、宗教や哲学思想と深く結びついて発展してきた学問分野です。デカルトの二元論に洗礼された近代科学は、主体と客体を分離することで（客観性を持つことで）発展し、自然や環境も客体としてそれを征服することに人間の英知が注がれてきたように思います。しかし、医療は科学ではなく仁術と言われるように、主体を内包するものに技術を用いる場合には、そこに倫理が介在します。今まさに、環境は客体ではなく、人間存在の場として主体を内包する存在という認識が高まっています。つまり、自然や環境を扱う場合もそこに倫理が必要とされていることを強く感じます。「人間を生態系の一部と捉え、人間社会の継続と発展を考える」場合、「生物や環境を扱う技術者として求められる倫理とは何か」。難しい問題ですが、考え続けていかなければならない課題だと思っています。

とりとめのない雑文になりましたが、近況報告ということでご容赦下さい。



次号は、鳴海日出人さん（水産部門）



**菅野 哲朗 建設部門（道路）・総合技術監理部門**

**勤務先：(株)アサヒ建設コンサルタント**

**TEL (0166)23-4526 FAX (0166)23-4528 E-mail : t\_sugano@asahicc.co.jp**

私は、旭川生まれの47歳の土木技術者として24年間業務に携わっています。そのうち20年間を道職員（官側）、4年間を土木コンサルタント職員（民側）として経験していて、知人からは、よく思い切って公務員をやめたねと言われていました。

道職員時代は、道路に関する業務が主で、計画、設計、積算、工事監理、維持管理（パトロール・草刈・除雪）、いつまで経っても嫌な会計検査対応など全般にわたり、現場である土木現業所で経験を積みました。技術士試験は、その時の経験から、ダムの付替道路計画、道路維持管理を記述して、H7、H13に合格しました。

民間の土木コンサルに入ってから、道路の他に公園設計や住民参加のワークショップ、最近では時代の要求からコンクリートの劣化調査や間伐材利用の土木製品開発など、いろいろな業務経験をさせてもらっています。

そんな訳で私は、一つの事をより深く追求しているわけではありませんが、違う立場からいろいろなことを経験したことが私の特徴であり、今後は、その事（総合技術監理部門にも関連します）を大事にして行くと共に、時代は建設部門においても新技術を積極的に取り入れる時代になって来ており、その意味で、北海道の視点（雪国など）から見落とされていた有効な技術開発などを意識しながら、技術士として技術の研鑽に努めて行きたいと考えています。



次号は、大原 治さん（建設・農業部門）



駒井 明 農業部門（農業土木）・総合技術監理部門 勤務先：札幌工科専門学校

TEL (011)683-3460 E-mail : www.Rabi@d4.dion.ne.jp

2003年7月18日(平成15年)に34年間の公務員を卒業し、第2の職場に就くこととなりました。よろしくお願ひいたします。55才を迎えて、目下、体の柔軟性と持続力の維持のため、週一のヨガと水泳に励んでいます。頭の柔軟性を高める何かよい方法はないでしょうか？これが分かれば万全だと思っておりますが……。またまた趣味の話で恐縮ですが、弓道にはまっています。弓道教本を初め、いろいろと技術指導書は数多くあるのですが、肝心の技術的要点に関しては「正しく」云々するとの記述が多く、その正しさの内容については高段者からの口伝と直接指導を元に練習で体得する他なさそうというのが現時点の初心者たる私の理解するところです。弓道では、禪に発する円相という概念があります。矢をつがえた弓を両腕であたかも大木を抱えるがごとく打ち起こし、天地左右八方に伸び合い、弓の復元力に耐えること数秒、満を持して15間先の尺二寸の的をめがけて放ちます。的中することもあります、私の実力ではやっと5割程度です。心正しく技が正しければ必ず的をはずすことなく、これを正射必中と先達は諭しています。この心は分野こそ違え、技術者の目標に通ずるものがあるといたく感じ入っております。この域に達するにはまだ十数年掛かりそうですが、礼に始まり礼に終わる弓道は、物理的解析だけでは体得できない深遠な何かが隠されているように思えてなりません。技術士としての技術の研鑽とともに、生涯の友として弓道を続けるつもりです。本欄のエンジニアとパークの間に挟まったRingを見ていて駄文を連ねてしまいました。陳謝。



次号は、秀島好昭さん（農業部門）



天沼 宇雄 建設部門（道路）・総合技術監理部門

勤務先：北海道開発局建設部道路計画課

TEL (011)709-2311 内線 5368 FAX (011)757-3270

E-mail : amanuma-t22aa@hkd.mlit.go.jp

今年4月に北海道庁から北海道開発局に出向になり、半年が過ぎました。良い先輩、良い仲間達に恵まれ、環境にも慣れて、あとはひたすら仕事、仕事の毎日です。

道にいた頃は、街路、公園、道路、下水道といろいろな事業を経験させていただきましたが、開発局では新たに広報などを担当させていただいております。

一口に広報といっても幅が広く、普及啓発を目的としたシンポジウムやイベントの開催、ホームページなどによる情報公開、PIなど住民との合意形成、危機広報など様々な広報コミュニケーション活動があります。私も含めて、これまで技術者は広報と向き合う場面が少なかったように思います。

しかしながら、“コミュニケーション・スキルの善し悪しがプロジェクトの成否を左右する時代”においては、技術者自ら広報活動に取り組む必要が出てきています。

そして、近年様々な業界で発生した不祥事に対する報道を見ていると、これからは我々技術者も、危機広報（クライシス・コミュニケーション）に対する意識を強く持たなければならないと感じます。

というわけで、これを契機に勉強、勉強、また勉強……ハウレンソウ、ステーキ・ホルダーズ、スポーツ・パーソン……残業、飲み会、寝不足、二日酔い……。



次号は、石川健司さん（水道部門）

# エンジニアパーク

# Engineer *Ring* Park



**中崎 孝俊 建設部門（建設環境）**

**勤務先：北見市議会議員（中崎技術士事務所休業中）**

**TEL (0157)39-3665 FAX (0157)39-3665**

転機、人生何度目かのその時が突然訪れ地域の後押しもあり地方統一選挙に出ました。何か今でも夢の続きの中にいる様感じています。その顛末を書きます。

平成14年度の技術士試験に合格する事が出来、合格の喜びよりも責任の重さをひしひしと感じていました。

特に、地域の先輩技術士が、社内外を問わず後進指導に全力を挙げ、地域技術者のレベルアップを願う貴重な時間をさいて下さった事が、なお一層技術士としての一挙一動に責任を感じ「技術士試験対策講座の講師」、「オホーツク技術士協議会の設立」と活動をしていました。その合間をぬって漠然と総技監の試験勉強をしておりました。その試験勉強中に感じたのが、前年に起きたNY貿易センタービルへの無差別テロで、科学の粋を集めた施設が、同じく技術の結晶である旅客機が武器となり、リスクの中で私達は生活しており、私達技術者が科学技術を使う時の判断ミス、単純なエラーが、被害を拡大化させる事例が増えてきてしまった。ちょうど選挙への出馬に迷っていた時でもあり、総技監とは、本当に安全で安心して暮らせる社会を築かなければ、子供達に大きなツケを残すことのない様、環境や社会経済・システムに調和のとれた技術開発である。技術者も政治家も同じ方向を向いている事に気が付き大いなる転機となりました。残念ながらその年の総技監は不合格でした。また今年も人生のトレードオフについて猛勉強中であります。



次号は、坂上琢也さん（建設部門）



**松田 豊治 建設部門（河川砂防及び海岸） 勤務先：株式会社ノース技研**

**TEL (0138)43-6500 E-mail: t-matsuda@north-giken.co.jp**

**【函館の水】**

未来大学の先生にお会いした折りのこと、「松田さん。函館で1本100円もするミネラルウォーターを買って飲むなんて、ましてや常用するなんて、もったいないことをするもんだ。こんなすばらしい水道水は全国どこに行ってもない。もっともっと全国にPRすべきだよ。」と言われ、気にして飲んでみるとなるほどうまく、家で飲むウィスキーの水割りには全て水道水であります。最近、いろいろな機会がございまして、原水をとっている亀田川上流の新中野ダム、笹流ダム、高区浄水場、函館山の麓にある元町配水池とを、つぶさに見学いたしました。いかにいい水を市民に供給するか。財政難と闘いながら、当時からすると見るのも聞くのも全て初めてのことであり、まさに破天荒の事業でしたから、大変な苦勞の中、工事をやり遂げたのでありましよう。また、各々の事業がなんと1~2年で完成をしておりまして、当時の技術水準の高さに驚くばかりです。

なぜ、函館の水はうまいか。原水である亀田川の水が浄水のための薬品量が極めて少ないほど清流であることや、忘れてならないのはその水を育む水源保安林の極めて丁寧な手入れではないでしょうか。この良質の水を如何に安定して供給することが出来るようになったのか。函館の歴史を創った人々の苦難の歴史が記録されております。「うまい水をありがとう」と感謝するとともに、守っていかねばと痛感している昨今です。



次号は、宮田恒夫さん（建設部門）